

# Waldenfels 連続講演会

## 第1回目 Phenomenology of Attention

2009年11月18日(水曜日)

15:00-17:30

東京大学総合文化研究科・教養学部(駒場キャンパス)

[井の頭線、駒場東大前下車0分]

18号館4階コラボレーションルーム4

## 第2回目 The Emergence of the Voice

2009年11月20日(金曜日)

16:30-18:30

同18号館4階コラボレーションルーム2

使用言語: 英語, 参加費無料, 登録不要

### Prof. Bernhard Waldenfels (University of Bochum)

ワルデンフェルス教授は現在のドイツを代表する(現象学的)哲学者の一人で、既に日本でも、『行動の空間』(新田義弘他訳、白水社、1987)、『現象学とマルクス主義』(編著)(新田義弘他訳、白水社、1982)、『講義・身体現象学: 身体という自己』(鷲田清一・山口一郎監訳、知泉書館、2004)、『フランス現象学』(阿部文彦他訳、法政大学出版会、2009)など多数の翻訳で知られています。一貫してフッサールやメルロポンティの立場を出発点にしながらも、経験のダイナミックな動きを可能な限りその創造的あり方に則して取り出そうとしてきた試みは、身体論、他者論をはじめさまざまな分野で多くの挑戦的な問いを提起し、議論を巻き起こしてきました。最近では、responsive phenomenology という固有の見方を提起し、その見方のもとで一貫して議論を続けてこられています。